

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 4 月 30 日 (2015.4.30)

【公表番号】特表 2013-525575 (P2013-525575A)

【公表日】平成 25 年 6 月 20 日 (2013.6.20)

【年通号数】公開・登録公報 2013-032

【出願番号】特願 2013-508116 (P2013-508116)

【国際特許分類】

C 0 9 J 175/08 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 175/12 (2006.01)

C 0 9 J 5/00 (2006.01)

C 0 9 J 5/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 J 175/08

C 0 9 J 11/04

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 175/12

C 0 9 J 5/00

C 0 9 J 5/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 3 月 13 日 (2015.3.13)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明の一態様は、(a) 約 1 0 , 0 0 0 から約 8 0 , 0 0 0 g / モルの z 平均分子量 (M_z) を有するイソシアネート官能性ポリエーテル系プレポリマー；(b) 1 0 0 グラムのカーボンブラック当たり、少なくとも約 8 0 で、大きくても約 4 0 0 立方センチメートルまでのフタル酸ジブチル平均オイル吸収量を有するカーボンブラック；(c) 接着剤組成物の約 0 . 0 0 1 重量% から約 1 0 重量% の量の反応性ケイ素；及び(d) イソシアネートとヒドロキシル基の反応のための 1 種又は複数の触媒；を含む接着剤組成物である。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 7 】

本発明の接着剤組成物は、また、反応性ケイ素を含む。反応性ケイ素は、シランのような別個の分子として存在し得る。それは、前記プレポリマーの骨格内に又は末端基として、存在していてもよい。反応性ケイ素は、一般に、米国特許第 6 , 6 1 3 , 8 1 6 号の 4 欄 2 5 ~ 5 5 行に記載されているような加水分解を受け得るものである。他の例示的な反応性ケイ素は、米国特許出願公開第 2 0 0 2 / 0 1 0 0 5 5 0 号の段落 0 0 5 5 から 0 0 6 5 に、また、H s i e h の U . S . 6 , 0 1 5 , 4 7 5 の 5 欄 2 7 行から 6 欄 4 1 行に

見出すことができる（これらは、参照を通じて本明細書に組み込まれる）。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0028

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0028】

接着剤組成物中に存在する反応性ケイ素の量は、通常、接着剤組成物の全重量の約0.001重量%から2重量%である。反応性ケイ素の量（注意、ケイ素自体の重量であり、例えば、それに付いた有機基を含まない）は、接着剤組成物の少なくとも0.005%、0.01%、0.02%、0.04%、0.06%、0.08%、又は0.1%で、多くても1.8%、1.6%、1.4%、1.2%、1%、0.8%、0.5%までであり得る。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0071

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0071】

比較例 6

この比較例では、プレポリマーを、反応性ケイ素（すなわち、*ガンマ - アミノプロピルトリメトキシシラン）なしで製造し、このプレポリマーは次のようにして製造した。次の反応物を48で混合した：エチレンオキシド末端キャップ及び2,000の重量平均分子量を有する、22.73重量部（pbw）のポリオキシプロピレンと、4500の重量平均分子量を有する32.94 pbwのポリオキシプロピレントリオールと、10.04 pbwのジフェニルメタン - 4,4'-ジイソシアネート及び0.005 pbwのスタナスオクトエート。全ての反応物を混合した後、混合物を65で1時間反応させて、ポリエーテルプレポリマーを生成させた。ポリエーテルプレポリマーを生成させた直後に、混合物に、33.325 pbwのフタル酸ジイソノニル可塑剤及び0.96 pbwのマロン酸ジエチルを加え、30分間混合した。このプレポリマーのMzは、約315,578 g/molであった。この比較例は、たるみを示さなかった。中間組成物及び接着剤組成物は、実施例1に記載したものと同一方法で生成させた。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0072

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0072】

比較例 7

この比較例は、MDIの量が12.05 pbwであったこと以外は、比較例6におけるものと同じ方法で製造した。プレポリマーのMzは、34,399 g/molであった。この接着剤は、室温で、たるみを示さなかった。比較例6及び7は、接着剤組成物内に反応性ケイ素のないプレポリマーのMzは、広い範囲のプレポリマーの分子量（Mz）にわたって、接着剤のたるみに、顕著な如何なる影響も示さないことを示す。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0075

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0075】

上の実施例（１、２、及び３）並びに比較例８及び９は、 M_z が最初は８０，０００より少し大きいだけかもしれないが、これらの M_z で、それらは、エージングのせいで、すぐに使用できなくなり、このため実用的な製品でなくなることを示す。これがなぜそうであるかは理解されておらず、反応性ケイ素と、接着剤組成物がエージングされた時に、経時的に現れる分子量とに関連する複雑な相互作用が存在すると、決して本発明を限定することなく、考えられている。それにもかかわらず、 M_z が約８０，０００未満である場合、接着剤は、かなりの時間エージングされた場合でさえ（例えば、６カ月、９カ月、１２カ月、又は１８カ月でさえ）、良好な性能を示す。

【誤訳訂正７】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項１】

（ａ）１０，０００から８０，０００ｇ／モルの z 平均分子量（ M_z ）を有するイソシアネート官能性ポリエーテル系プレポリマー；（ｂ）１００グラムのカーボンブラック当たり、少なくとも８０で、大きくても４００立方センチメートルまでのフタル酸ジブチル平均オイル吸収量を有するカーボンブラック；（ｃ）接着剤組成物の０．００１重量％から１０重量％の量の反応性ケイ素；及び（ｄ）イソシアネートとヒドロキシル基の反応のための１種又は複数の触媒；を含む接着剤組成物。

【請求項２】

２３で５ｍｍ超のたるみを有し、２３を超える温度で５ｍｍ未満のたるみを有し、前記たるみは、前記接着剤組成物の三角形のビード（１０）を垂直の基材（２０）に塗工し、ここで、前記ビード（１０）の稜のうち、前記基材（２０）に接触する稜（３０）は１０ｍｍであり、前記基材（２０）に直角の稜（４０）は２５ｍｍであり、残りの稜（５０）は２７ｍｍであり、前記塗工から３分後に前記ビード（１０）の先端（７０）の水平からのずれ（６０）を測定することによって求められる、請求項１に記載の接着剤組成物。

【請求項３】

カーボンブラックが、１００から１５０のオイル吸収量を有する、請求項２に記載の接着剤組成物。

【請求項４】

２３で５ｍｍ未満のたるみを有し、前記ポリエーテル系プレポリマーの分子量が大きくても７０，０００ｇ／モルである、請求項３に記載の接着剤組成物。

【請求項５】

カーボンブラックが、接着剤組成物の１８重量部以上の量で存在する、請求項２に記載の接着剤組成物。

【請求項６】

２３未満の温度でのたるみが、２３を超える温度でのたるみよりも大きい、請求項２に記載の接着剤組成物。

【請求項７】

２以上の公称官能基数を有する１種又は複数のポリイソシアネートをさらに含む、請求項１に記載の接着剤組成物。

【請求項８】

カーボンブラックの吸油量とヨウ素価の積が、少なくとも７，０００である、請求項７に記載の接着剤組成物。

【請求項９】

（ｉ）請求項１に記載の接着剤組成物を塗工ノズルに送ること、

（ｉｉ）ステップ（ｉ）による接着剤組成物のビードを、塗工ノズルを通して、複数の

基材の少なくとも１つの少なくとも一部に塗工すること、
（ i i i ）接合される複数の基材を接触させること、及び
（ i v ）接着剤組成物を硬化させること、
を含む、２つ以上の基材を互いに接合する方法。

【請求項 １０】

ステップ（ i ）において接着剤組成物を送る間に、前記接着剤組成物が、２，０００パスカル以上の剪断を受ける、請求項 ８に記載の方法。